

# てくてくタウン 8月

楽しみも生きがいも足元から。身近な街の情報を皆様のお手元にお届けします。

●毎月1回月末朝刊折り込み ●朝日新聞苦小牧・白老店主会発行 ●ASAてくてくタウン制作室 (ASA苦小牧新生台明野内)

お気軽に情報をお寄せください。

## ASA 朝日新聞サービスアンカー

- 新生台明野 ● 苦小牧市双葉町1丁目9-11 TEL 37-2676
- 苦小牧糸井 ● 苦小牧市青雲町2丁目8-7 TEL 67-0423
- 錦岡 ● 苦小牧市青雲町2丁目8-7 TEL 67-0423
- 白老 ● 白老郡白老町若草町1丁目13-25 TEL 82-3123

8月の朝日新聞休刊日は17日です

2007年に開催された「第58回全国植樹祭」の跡地で、2009年から森づくりにまつわるさまざまな体験の機会を提供しています。林の間伐からはのこぎりや斧の扱い。切った幹や枝からは薪づくり、木工など。大人も子どもも遊び感覚で作業しながら森に親しみ道具の使い方も身につけることができます。



●苦東・和みの森運営協議会 (土地所有者の森苦東ほか、北海道、苦小牧市、利用者と協議会形式で運営) 事務局 (いぶり自然学校) / 苦小牧市日吉町4丁目1-7 (電話) 0144-73-2565 (ブログ) [http://blog.goo.ne.jp/nagominomori\\_11](http://blog.goo.ne.jp/nagominomori_11)

## クローブアップ

### 苦東地区の多様な自然環境を 守り伝えるために活動中!

同人法では、多様な自然環境を有する勇払原野を地域の資源「共有地」と捉え、地域住民が管理・整備しながら恵みをいただく、暮らしに根ざす保全に取り組んでいます。事務局長の草薙健さんは約40年前に苦小牧東部開発㈱に入社し、緑地保全管理等に携わり活動を開始。自生するハスカップの保存調査も継続中です。



●NPO法人苦東環境 commons 事務局 / (電話) 090-6999-2765 (メール) kt-884-556@nifty.com <http://homepage3.nifty.com/hayashi-kokoro/>



村井雅之さんはウトナイ湖や苦東地区を含む勇払原野をフィールドに、自然教育、観察会、調査活動を行っています。一帯を歩いて環境の移り変わりも観察し、新聞などの媒体で情報を発信。緻密なイラストも人気のです。「勇払原野は湿地、森林、草原など多様な自然が身近にそろっている場所」と、魅力を語ります。

●ゆうふつ原野自然情報センター 主宰 / 村井雅之 (電話) 090-9515-4249 (メール) qqqq4gm9@herb.ocn.ne.jp



「日本野鳥の会」は自然保護や環境教育を目的とし、1981年に国内初の「サンクチュアリ」をウトナイ湖に設置しました。以来、湖周辺を拠点に情報発信、調査・保全活動を実施。また、絶滅のおそれのある希少な野鳥が渡来する苦東地区でも活動を行い、工業用地内の原野での観察会も毎年開催しています (今年は9月27日予定)。

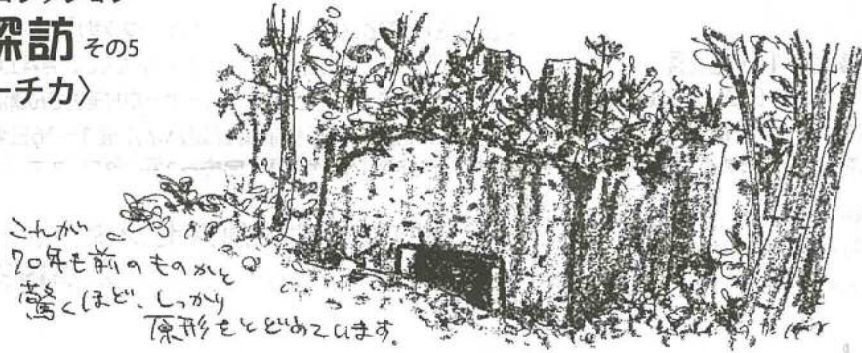
●公共財団法人日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター 苦小牧市植苗150-3 (58-2505 ※月・火曜除く 9~17時) ※開館は土・日曜、祝日のみ <http://park15.wakwak.com/~wbsjcs/011/>

## まちのお宝コレクション

### 苦東探訪 その5

#### 〈綱木トーチカ〉

戦争遺跡



うっそうと茂る草木の中に、コンクリート製の四角い建造物が鎮座しています。煙突状の空気孔が天井から突き出す姿はこぢんまりとした住居のようにも見えますが、太平洋戦争末期米軍進攻に備えて建てられ、現存する真正正銘の「トーチカ」。現在がからんと何もない内部には、当時、最新鋭の対戦車砲が置かれていたそうです。太平洋の方向に大砲用の銃眼(窓)が開かれ、米軍上陸の危機が現実だったと実感できます。折しも戦後70年の節目。決して繰り返してはいけない過去が身近にも存在したと、忘れずにいたいものです。



「エゾユキウサギ」(撮影地:旭川市 江丹別)

まさに脱兎のごとく。

北に生きる動物たち

写真家 神田博

<http://www.htb.co.jp/kanda/>

## てくてくアルバム 2015.7月

神々や先祖への贈り物として儀式に欠かせない、ヒエを原料とするお酒です。(300ml 1,080円※税込)

小樽の老舗メーカー 田中造酒が製造。8月8、9日開催の夜間特別プログラム「ポロトコタン」の夜限定販売。試飲セットメニューも用意します。



ルイカ(橋渡し)プロジェクト ▲アイヌ伝統のお酒「カムイトノト」復刻お披露目 (7月17日=アイヌ民族博物館・白老町) ※8月はほかにも講座や体験会が多数開催されます



▲東日本大震災復興支援 チャリティーイベント「つなぐIV」 (7月20日=MEGAドンキホーテ苦小牧店 主催:ピース053)

## 苦小牧・白老 食いしん坊 ファイル

No.29

### 〈パフェトロピカル〉

900円(税込)

※パフェは全6種類あります



食後もロヤのどがいへたつかなり。 すまじした甘じの シェイクも看板商品 にして新装オープン!

新聞紙の「アール・ド・フランス」が特徴です。 1107エはまき子 茶休用品の 全身はお店2階の カネコーナーで、確かめ!

おかしLABO Soleil Solaire 苦小牧市三光町5-26-14 電話/38-6660 営業時間/10:00~20:00 ※2階カフェコーナー19:00まで (オーダーストップ18:30) 不定休

## 四季の風 アポイ岳に思う

「花の名山」として知られる様似町のアポイ岳で、固有種の「ヒダカソウ」が絶滅の危機にひんし、国内ではアポイ岳周辺だけに生息する国天然記念物のチョウ「ヒメチャマダラセセリ」も生息環境の悪化で種として存続するには危機的な状況にあるという。

アポイ岳は、低標高ながら海霧が気温を低下させ、「かんらん岩」に代表される特異な地質と相まって多くの固有種を含む高山植物群落が発達し、1952年には国の特別天然記念物に指定された。

だが、久しぶりにアポイ岳に登ると驚く。かつての「お花畑」は見られぬ。相次ぐ盗掘に、ハイマツなどの侵入が追い打ちをかけた、お花畑が衰退しているのだ。

アポイ岳に初めて登ったのは30年前だった。すばらしい高山植物群落に目を奪われた。日高も取材エリアの苦小牧支局に赴任して3年余。町民たちの高山植物の再生活動やヒメチャマダラセセリの生息環境保全実験、世界ジオパーク認定に向けた取り組みなどで、ことあるごとにアポイ岳に登っている。

お花畑の衰退はさびしいが、樹林帯を行く5合目までの登山道、岩礫地の急登に息はずませる7合目まで、海を眼下に風が吹かれる馬ノ背から頂上まで、アポイの山行きは、季節や標高によって移り変わる足元の草花、野鳥や昆虫たちに迎えられる。今年はヒメチャマダラセセリにも出会えた。その楽しさは今も昔も変わることはない。

朝日新聞苦小牧支局長 深沢 博